

一般演題（ポスター発表） | 一般演題（ポスター発表） | [ポスター発表3] 症例・施設

ポスター発表3

症例・施設

座長：伊藤 加代子（新潟大学医歯学総合病院口腔リハビリテーション科）

Sat. Jun 17, 2023 10:00 AM - 10:30 AM ポスター会場 (1階 G3)

[P17]新型コロナウイルス感染症による隔離後の一症例

○稲富 みぎわ¹、秋山 悠一¹、氷室 秀高² (1. 医療法人社団秀和会 水巻歯科診療所、2. 医療法人社団秀和会 小倉南歯科医院)

【緒言・目的】

今回、私たちは、新型コロナウイルス感染症による隔離後に、口腔機能低下と老人性うつ病の増悪により、食欲の低下を生じた一例に居宅療養指導を経験したので報告する。

【症例および経過】

96歳男性。家族と同居。糖尿病、房室ブロックによるペースメーカー植え込み、脳梗塞、左片麻痺、老人性うつ病による活動の不活発化と食欲不振の既往あり。新型コロナウイルス感染症による呼吸不全で入院し、隔離され酸素療法を受ける。入院前のADLはほぼ自立だったが、隔離中に喫食量が減少し、体重が5kg減少となり、起立不能、左踵に褥瘡を生じていた。退院時、ADLはほぼ全介助（食事のみ一部介助）の状態となる。当院初診時、ほぼ寝たきりで傾眠傾向にあった。摂食嚥下の状態は、喉頭挙上の不全があり、咽頭に液体貯留音を聞き、ときに自分の唾液でむせていた。これらから咽頭クリアランスの低下を疑った。口腔機能では、欠損と歯周病の状態から咀嚼機能不全の状態と考えられた。患者と家族は、検査・訓練・歯周病治療以外の歯科治療を希望しなかった。短期目標を口腔衛生状態の改善と歯周病の炎症のコントロールとし、誤嚥性肺炎の防止を行なうことを長期目標として介入を開始した。約2週間で口腔衛生状態は著しく改善し、オーラルリテラシーにも改善が見られた。歯周病による炎症も軽減し、肺炎は現在まで再発を見ていない。さらに食べてくれないことについて相談を受けた。食事は介助が必要なためベッドで家族と別にしていた。寝食分離の原則に従いベッドから食卓まで歩き、家族と食卓を囲み食事時間を共にすることを指導した。1週間後には定着した。4割程度だった摂取量が毎食7～8割程度へ増加し、また食に対する意欲も生じた。初診から3か月後には、体重が増加し、褥瘡も改善傾向となった。なお、本報告の発表について患者本人から同意を得、快諾者より文書による同意を得ている。

【考察】

食欲不振には、多くの因子が関与する。そのなかでうつは大きな原因となる。老人性うつ病は、介助者との何気ない会話から回復を見せることもあるという。私たち歯科衛生士は、包括的に患者と接することに慣れているとはいいたい。今後も様々なことを学び、研鑽に励みたい。（COI開示：なし）（医療法人社団秀和会 倫理委員会承認番号 2302）